

教職支援室便り

8 月 号
平成26年8月 8日 (金)

文責：教職支援室 山本 寛 幸
☎ 0985-20-4808

教員採用第二次選考試験始まる！

○8月8日(金)現在、第一次選考試験の結果を一部の自治体が発表していますが、すべての自治体の発表を待って、「教職支援室便り9月号」に本学現役・既卒者の第一次選考試験合格者数を掲載します。
○北海道を皮切りに第二次選考試験が始まりました。大分県は第三次選考試験まで実施しますが、ほとんどの自治体は第二次選考試験で終了します。その結果は、10月中旬から10月下旬に発表になります。今回は、第二次選考試験の内容を紹介します。

第二次選考試験の内容

教員採用選考試験においては、教育者としての使命感、豊かな人間性や社会性、様々な体験に裏付けられた確かな指導力などを備えた、優れた人材を確保することが重要な課題となっており、人物評価を重視した選考になっています。第一次選考試験では、筆記試験が中心でしたが、第二次選考試験では、ほとんどの自治体が、個人面接、集団面接、集団討論、模擬授業、場面指導などの面接試験を実施し、人物重視の選考試験が行われます。また、適性検査を実施している自治体もあります。

面接試験には、個人面接等にそれぞれ3～4名の面接員が入りますので、1名の合格者を決めるのに12名程度の面接員が評価することになります。

1 個人面接

個人面接は、すべての自治体で実施しています。質問の内容は、冒頭に1分間の自己PRをした後、願書などに基づいて受験者の履歴、具体的な志望動機など個人的な質問に始まり、教科指導や生徒指導に対する具体的な対応や教育関連のニュースなど幅広く質問されます。

個人面接は、個人の資質や能力に深く迫る最も重要な面接形態です。その応答の内容、反応の仕方、言語などから受験者の人柄や能力等を評価しようとするもので、合否は個人面接によって決まるといっても過言ではありません。受験者1名に対して、面接員3～4名が順に質問していきます。1名当たりの面接時間は15～20分です。「明るさ、快活さが伝わってくるか」「情熱や気迫が伝わってくるか」「教育に対する意欲や使命感があるか」といった点でも評価されます。

2 集団面接

集団面接も個人面接と同様に、面接員の質問に対する応答内容、態度、言語などから受験者の人物を評価することを目的とすることにおいては変わりません。

実施方法は、同一の質問を受験者全員に投げかけ、並んでいる順や指名順に一人ずつ答えを求める場合が多いようです。また、挙手によって答えを求める場合もあります。

受験者は、面接員の質問を的確に捉え、他の受験者の回答に影響されることなく、自分なりの答えを明快に伝えることが必要です。

3 集団討論

集団討論は、5～10名の受験者の集団討論の様子を面接員3～4名が評価するものです。集団討論室に入ると、面接員から集団討論課題が示されます。例えば、「心に響く生徒指導とはどのような指導だと思いますか。具体的な例を交えながら討論して下さい」と書かれた用紙が配付され、7分程度で自分の意見をまとめます。その後、1番から順に2分間の意見を発表後、面接員から自由に20分間討論するよう指示されます。討論後、10分間程度、面接員から質問があります。

4 模擬授業

模擬授業は、ほとんどの都道府県で英語(各教科)の模擬授業が行われていますが、道徳や学級活動の模擬授業を行うところもあります。模擬授業は、他の受験者を生徒と見立てたり、面接員が生徒役になったりして、教室において模擬授業を行うものです。

5 場面指導

場面指導とは、現実には起こりうる場面（生徒指導、悩み相談等）を想定し、その場面において、受験者が教員として実際にどのような指導や対応をするかを問う面接試験の一形式です。例えば、「自分が担当する部活動の中心的存在の2年生が、最近、試合で成績が残せないことで、サボりがちになっています。その生徒と相談室で話したところ、『先生の指導が良くないからうまくいかない』と言って、相談室を出ようとしていました。どう対応しますか」といった場面で、生徒役の面接員に対して指導します。

宮崎県の場面指導は、別室で構想時間が7分（別室で思考、移動、面接室前で待機）与えられ、面接室に入室後、受験番号、氏名を述べ、場面指導を3分間行います。

6 適性検査

教員の資質として要求される諸々の特性について、客観的に調べるために実施されます。主にクレペリン検査、Y-G性格検査などが行われています。

第二次選考試験に備えて！

第一次選考試験の結果が発表になってから第二次選考試験対策を行っても十分な対応ができないため、7月28日（月）から個人面接、集団討論、模擬授業、場面指導等の第二次選考試験対策を始めました。勉強会は、8月下旬まで、毎日10時から17時まで行います。

個人面接、集団面接、集団討論、場面指導は、山本が指導しますが、模擬授業については、今年度も赤江中学校水元校長先生から、5日間指導して頂きます。みっちり対策を行ってから第二次選考試験に臨むことができます。

《先輩の模擬授業VTR視聴》

模擬授業の指導を受ける前日に、先輩の模擬授業のVTRを視聴しました。VTRを視聴しながら、模擬授業のポイントを整理しました。

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| ・明るくはきはきとよく通る声で授業する。 | ・板書の文字は丁寧に。色チョークを使う。 |
| ・メリハリのある授業を行う。 | ・クラスルーム・イングリッシュを使う。 |
| ・発問に答えた生徒に、笑顔で大げさにほめる。 など | |

《模擬授業の練習》

7月29日（火）から模擬授業の指導に入りました。指導者は、赤江中学校水元校長先生です。「今年度も模擬授業の指導をお願いしたい」と依頼しましたら、お忙しい中に、「はい。喜んで」と二つ返事で快く引き受けて頂きました。

水元校長先生から与えられた題材で10分間の模擬授業を行い、その都度、アドバイスを受けています。



水元校長先生



《個人面接の練習》

面接員からの様々な質問にしっかり応答できるよう、まず、ペアで練習（片方が面接質問集より質問）します。その後、集団面接の形で練習し、最後に、個人面接を行います。どんな質問をされてもきちんと応答できるよう練習します。



九州地区の採用者数の推移

九州地区の採用者数の推移を文部科学省資料、各自治体のホームページ及び今年度の教員採用選考試験実施要項から作成しました。地方の自治体のホームページに、教員採用者数について、「今後の大量退職の時期を迎えるに当たり、計画的に教員の確保に努めていく」と書いてありますが、現状は、どうなのでしょう。

《小学校》

採用増が顕著に表れているのが福岡県、佐賀県、大分県です。長崎県の今年の採用見込数は、昨年度より52名の増となっています。宮崎県は横ばいです。

H26=平成25年度実施

	H22	H23	H24	H25	H26	H27見込
宮崎県	45	40	35	40	42	44
福岡県	126	196	294	308	330	360
佐賀県	39	48	55	75	86	95
長崎県	37	41	42	51	68	120
熊本県	100	95	81	130	116	96
大分県	55	65	85	112	124	130
鹿児島	101	109	101	80	87	75
沖縄県	108	250	225	220	210	220

《中学校》

中学校も福岡県が大量採用期に入っていることが伺えます。佐賀県、大分県も微増。長崎県が小学校と同様、昨年度より採用見込数が30名増となっています。宮崎県は前年度と同数です。

	H22	H23	H24	H25	H26	H27見込
宮崎県	41	35	24	29	36	36
福岡県	51	78	142	158	170	200
佐賀県	35	52	47	55	61	75
長崎県	24	35	38	36	50	80
熊本県	55	52	48	71	56	33
大分県	39	40	41	52	62	65
鹿児島	59	65	63	58	66	
沖縄県	41	108	112	109	91	90

《高等学校》

増加傾向にあるのは福岡県のみです。宮崎県は前年度より、採用見込数が減少しています。

	H22	H23	H24	H25	H26	H27見込
宮崎県	38	25	35	40	46	37
福岡県	45	71	150	155	170	182
佐賀県	31	38	35	43	48	45
長崎県	45	42	34	35	43	50
熊本県	66	70	77	88	70	75
大分県	30	35	34	34	31	30
鹿児島	61	58	47	43	54	
沖縄県	87	94	86	78	69	70

現職教諭・臨時講師等の来訪者（7月）

7月も7名の本学卒業生が教職支援室を訪れ、近況等を語ってくれました。

山口枝里先生(H26.3卒宮崎市在住)、江良美乃里先生(H23.3卒大分県在住)、石黒えみ先生(H23.3卒宮崎市在住)、黒木哲史先生(H25.3卒延岡市在住)、山元愛先生(H25.3卒鹿児島県在住)、真方明恵先生(H23.3卒延岡市在住)、根岸拓也先生(H26.3卒群馬県在住)